

# わが

## 安心と希望、 「ふるの」 協働と活力の大地

### へそのまち「ふるの」

北海道のほぼ中心に位置する富良野市は、東方に大雪山系十勝岳、西方には夕張山系芦別岳がそびえ、空知川の清流が肥沃な大地をもたらず自然豊かな田園都市です。

この肥沃な大地で明治期から農業が営まれ、「ふるのワイン」や



1,500haの作付けを誇るタマネギ

「ふるのチーズ」など、多くの特産品が生み出され、今日では「富良野ブランド」として多くの人に親しまれています。日本屈指の規模を誇る富良野スキー場は、冬のリゾート拠点として、国内外から多くのスキーヤーが極上のパウダースノーを求めて訪れます。また、ラベンダーなど彩り豊かな花々や、全国初の公設民営劇場として脚光を浴びる富良野演劇工場、地域の食材をふんだんに使った富良野オムカレーなど、地域資源の特性を生かした観光は、訪れる人々を魅了しています。

こうした富良野盆地の豊かな自然環境を支えているのが、昭和58年の3種分別試行を皮切りに、昭和63年から6種分別を本格実施したごみのリサイクルです。現在は14種分別に拡大し、「分ければ資

源 混ぜればごみ」を合言葉に、環境にやさしいまちづくりを推進しています。

### 基幹産業「農業」を 未来につなぐ

本市の農業は、転作を機にタマネギやニンジンなどの作付面積が拡大し、北海道でも有数の一大野菜産地を形成してきました。しかし、この30年余りで農家戸数は半減し、農業を基幹産業とする本市にとって、極めて憂慮すべき事態となっております。

そのため平成26年10月に、北海道、農業協同組合、土地改良区などと連携して、「富良野市農業担い手育成協議会」(現在の「一般財団法人富良野農業担い手育成機構」)を立ち上げ、新規参入者や親元就農者の就農支援、農業従事



平成30年6月にオープンしたコンシェルジュ フラノ

者の確保と育成に、計画的かつ一元的に取り組み始めました。これまでに3組6人が就農し、現在も6組12人が研修を受けています。今後も、「富良野で農業にチャレンジしたい」と思っていただけできるよう、魅力ある研修プログラムを提供し、将来にわたる農業振興や活力ある農村の形成に活躍する人材を確保していきます。

また、法人化などによる経営体の強化をはじめ、ロボット技術や情報通信技術を活用したスマート農業の促進、さらには土地改良基盤整備事業による作業の効率性と

生産性を高めながら、富良野農業を未来へつないでいきます。

## 中心市街地の活性化で まちにぎわいを

平成22年に「フラノマルシェ」、平成27年に「フラノマルシェ2」が中心市街地にオープンし、年間120万人以上が訪れる観光スポットとして、まちなかにぎわいをもたらしています。こうした事業展開は、中心市街地と商店街の資産価値の向上にも波及しており、マルシェ周辺の商業地価格は5年連続で上昇しています。



観光客を魅了するラベンダー

平成30年6月にオープンした「コンシエルジュフラノ」は、地上4階・地下1階の空き店舗ビルを、ふらのまちづくり株式会社取得し、経済産業省の補助事業を活用して大規模改修した「インバウンド」「宿泊」「食」がテーマの複合施設です。フラノマルシェとの相乗効果によって、新たなにぎわいが生まれつつあります。本年6月からは観光客誘致機能を拡充させ、「コンシエルジュフラノ」を拠点に「着地型観光」の情報を発信し、より一層のにぎわい創出に向けて取り組んでいます。

中心市街地はまさに「まちの顔」であり、コミュニティを存続させる生活基盤としての役割を担うことから、子どもからお年寄りまで日常的に集い交流する憩いのエリアとして、今後も公民連携し、まちなか回遊の促進を図っていきます。

## 健康で幸せが実感できる 「ふるさと富良野」の創造を

少子高齢・人口減少時代を迎え、自治体運営は今までに経験したことのない厳しい環境が予測されます。私は、市民、企業、議会、行政が一体となり、前例にとらわれる

ことなく、積極的に新しいことにチャレンジできる、改革を恐れないう「オールふらの」であらゆる局面を乗り越えていかなければならないと考えております。

私のまちづくりの基本理念であります「全ての市民が健康で生きがいを感じ、安全で安心して暮らし、幸せが実感できる『ふるさと富良野』」の創造に向けて、着実な歩みを進めてまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 600・71km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万1675人
- ◆ 世帯数 1万920世帯

〔将来都市像〕安心と希望、協働と活力の大地「ふらの」

〔まちの特徴〕大雪山系十勝岳と夕張山系芦別岳がそびえ、北海道のほぼ中心に位置する「へそのまち」

〔特産品〕ふらのワイン、ふらのぶどう果汁、ふらのチーズ、ふらの牛乳、タマネギ、メロン、富良野オムカレ



富良野市長  
北 猛俊



〔観光〕フラノマルシェ、コンシエルジュフラノ、富良野演劇工場、ふらのチーズ工房

〔イベント〕北海へそ祭り、ふらのへそマラソン、ふらのワインぶどう祭り、ふらのスキー祭り、ふらの演劇祭、ふらの花火大会



毎年7月28日・29日に開催される「北海へそ祭り」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 郷土を愛し、未来創生！ 明るく元気なまちづくり

### 地域コミュニティの 維持・強化

市政運営の基本方針は、地域コミュニティの強化です。親子の絆、家族の絆、そして地域の絆をより強固に結び、郷土藤岡への愛着と愛情を育てていくことができれば、子どもや高齢者の見守りにつながり、地域を守ることができると確信をしています。そのことにより、市民一人一人が「一人ではない、人とつながっている」という思いの下、安全に安心して暮らすことができる社会を実現していきます。



地域の歴史・文化保存継承事業

そのための施策として、「地域の歴史・文化保存継承事業」および「地区公民館改修事業」を実施します。

地域の歴史・文化保存継承事業は、市内の全行政区を対象に交付金を支給し、古くから地域に根差した活動や文化・伝統行事などを記録・保存する事業です。各行政区から寄せられた行事などの記録写真は市のホームページに掲載し、市内外に向けて広く周知をしていきます。

本事業を実施することにより、自分たちが暮らす地域を見つめ直し、地域の歴史や文化への理解を深めるとともに、後世に継承していくことを通して、子どもから高齢者まで世代を超えた連帯感や郷土愛を醸成することを目的としています。

また、地域行事や生涯学習を通して、地域の人々の交流の拠点となる地区公民館については、昭和50年代に建設されたものが多いため、安全に安心して利用できるよう耐震補強および大規模改修工事を実施します。

既に改修や建て替えを行った公民館を除く6公民館について、当初の予定（令和8年度末の完了）を前倒しして、令和4年度末までに完了させる予定です。

事業の実施に当たっては、利用者のアンケート調査などを行い、要望や意見を広く集め、可能な限り設計に反映できるよう配慮しながら進めます。

### 交通の利便性を生かした 企業誘致・雇用創出

本市は東京から約90kmの距離に

位置しており、市の北部には日本の中央の南北軸である関越自動車道と東西軸である上信越自動車道、北関東自動車道により十字軸が形成されています。そのため本市は、日本海から太平洋、東北から中京・関西を結ぶ高速自動車道交通ネットワークの結節点として重要な役割を担っています。また、地震や水害などの自然災害が比較的少なく、特に地盤が固いことも特徴です。さらに本市を含む群馬県は年間の快晴日数が全国2位、日照時間が全国6位と上位に



地理的優位性を生かした企業誘致を推進



地域と連携したコミュニティ・スクール

## 「笑顔・やる気・希望」を育む コミュニティ・スクール

本市の学校教育は、「小中一貫教育による学力の向上」と「地域連携の強化による地域とともにある学校づくり」の二つの取り組みを大きな柱としています。

小中一貫教育については、

位置しており、天候にも恵まれています。

この地理的優位性を生かし、本市には既に12カ所の工業団地があります。今後も、人口減少が進む中、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立させるためにも、スピード感を持って積極的に企業誘致を推進していきます。

特に、付加価値が高く雇用吸収力のある製造業や次世代産業などを中心とした企業を誘致し、市民の雇用の創出に努めます。

平成26年度から同一中学校区の小学校において目指す子ども像と

教育目標を共有する「併設型小中一貫校」の形で進めており、これは群馬県内で初の取り組みとなっています。

また、地域連携の強化を目的としたコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）については、平成29年度の試験的導入、平成30年度の法的整備を経て、本年4月から全中学校区にそれぞれ一つの学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりを進めています。こちらでも群馬県内で初となる取り組みです。

小中一貫教育とコミュニティ・スクールは、極めて親和性が高い取り組みであり、児童生徒に多様な人との関わりを持たせたいという共通の願いがあります。双方を両輪として、学校教育の一層の充実を図り、学びに向かう力・人間性などの育成を目指します。

## 10年、20年先の都市環境 を見据えたまちづくり

これからのまちづくりについて、特に以下の四つの取り組みを中心とし、10年、20年先の都市環

境を創造し、まちづくりを進めていきます。

■インフラ整備や企業誘致を進め、人々が集い、交流する新しい産業交流拠点を目指す「高速交通・拠点性を生かした産業基盤整備」

■生活サービス施設や住居などの土地利用の誘導を行い、公共交通などの維持とともに健康で快

適な生活環境を目指す「都市機能と住環境の整備」

■農地の集積・集約化を促進し、優良農地と都市機能が共存する田園都市の形成を目指す「農地集積による田園都市の形成」

■市域の約60%を占める山林の有効活用を図り、豊かな自然環境と観光産業の相乗を目指す「豊かな自然環境との調和」

## プロフィール

◆面積 180・29km<sup>2</sup>

◆人口 6万5415人

◆世帯数 2万7538世帯

〔将来都市像〕水と緑に包まれ人と歴史が未来まで息づくまち「快適・安心な交流拠点都市 ふじおか」

〔まちの特徴〕東京方面からの「群馬の玄関口」で高速自動車交通ネットワークの結節点であり、また自然の豊かさを実感できるまち

〔市町村合併〕平成18年1月1日鬼石町を編入合併



藤岡市長  
新井雅博



〔特産品〕ふじ娘とまと、イチゴ「やよいひめ」、シンビジウム、梨、藤岡瓦、地酒、ブルーベリー

〔観光〕道の駅「ららん藤岡」、世界文化遺産「高山社跡」、ふじの咲く丘、桜山公園、土と火の里公園、三波石峡、七輿山古墳

〔イベント〕ふじまつり、上州藤岡ライド&ヒル、鬼石夏祭り、藤岡まつり、ふじおかフェスタ、上州藤岡蚕マラソン、桜山まつり、鬼恋節分祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 宇治の魅力と人々の想いを結集し、新しいまちの未来を創る

歴史・文化の香る宇治で、極上のおもてなしを

宇治市は、京都盆地の東南部に位置し、京都市の南に隣接しており、市内にJR奈良線、近鉄京都線、京阪宇治線の3本の鉄道が通り、交通の便が良いことから、高度経済成長期には、急激な人口増加が続き、京都や大阪のベッドタウンとして成長・発展してきました。琵琶湖から流れ出る唯一の河川である瀬田川が、宇治川として、天ヶ瀬ダムを経て、本市の中心を流れ、日本三古橋の一つに数えられる「宇治橋」周辺は、世界遺産の平等院、宇治上神社などの貴重な歴史遺産に恵まれ、宇治橋から上流を望むと、自然と歴史が調和する、素晴らしい景観が広がっており、

訪れる多くの観光客の皆さまに、この豊かな歴史と悠久な時の流れを実感していただいております。また、今や世界ブランドとなった宇治茶を求めて、海外からもたくさんのお客さまがお見えになっており、JR宇治駅や京阪宇治駅を降りていただくと、老舗の銘店をはじめ、さまざまな工夫を凝らしたショップが軒を連ね、休日ともなると、まるで街全体が、抹茶スイーツの一大テーマパークのようになにげわいを見せています。



多くの観光客でにぎわう平等院表参道商店街

将来を見据えた産業戦略が、宇治のまちの未来を創る

このように観光という側面においては、にぎわいの絶えないまちではありますが、少子高齢化による人口減少が進行する中において、子育て施策のさらなる充実とともに、地域経済をより一層活性化させることが、地域全体の活性化につながるものと考え、本年3月に、「広がる、生まれる、進化する」産業交流都市・UJI」をコンセプトに、「宇治市産業戦略」を策定しました。

### 宇治市産業戦略の目標

将来にわたって持続発展できる強い市内産業をつくり、多様な働く場を創出することにより、定住人口を確保し、市民の豊かな暮らしを実現する。

### 産業振興の三つの方向性

- 市内産業の進化・発展 (Upgrade)
  - 交流・連携の強化 (Join)
  - 新たな産業の創出 (Innovation)
- この産業戦略に基づき、まずは、

市内産業のさらなる成長、発展に向けて支援することに重点を置きながら、市内外の企業や事業者、関係団体、人材などの連携や交流を強化し、市内の経済循環を促進することによって、市内経済を活性化させて、元気なまちづくりを目指していきます。

さらには、将来の宇治を見据え、宇治のブランド力を生かしながら、時代のニーズに合わせた起業家を輩出するとともに、新たな工業用地の確保や市外からの企業の誘致に取り組みます。

### 宇治商工会議所との強力タッグで、まちを元気に！

まちづくりを進めていくためには、市民の皆さまをはじめ、さまざまな方々の力を結集していくことが、とても重要となります。

産業戦略を着実に進めていくために、市と宇治商工会議所が一体となって、市内企業を支え、企業の皆さまのさまざまなご相談にお答えする拠点として、「産業支援拠点 宇治NEXT」を本年6月に開設しました。

### 宇治NEXTが示す三つの姿勢

- ↓ 未来を志向する姿勢
- ↓ 次へ次へと前進していく姿勢
- ↓ 市内企業の近くで応援していく、NEXT US<sup>2</sup>という姿勢

宇治商工会議所の皆さまとの協力に加え、金融機関や大学などの連携により、未来の宇治を創っていくという思いを、さらに結集することができれば、きっと大きな花を咲かせることができると確信をしています。

### 宇治の新たな未来を創る、次なる一手

未来に向けたプロジェクトとして、本年3月に国土交通省において、「かわまちづくり」計画の登録発表が行われ、本市においても新たな「水辺を活かしたまちづくり」を始動することとなりました。本市の特色である、歴史遺産や

美しい自然景観、宇治茶、ウミウの日本初の人工ふ化で知られ、本年6月に人工ふ化の親から2世が誕生した宇治川の鵜飼などの貴重な財産に加え、駅からも徒歩圏内という好立地にある天ヶ瀬ダムを観光資源として有効的に活用し、ダムの管理用通路や、ダム直下に広場を設置することにより、天ヶ瀬ダムのスケール感を身近で体感していただく環境を整備します。

さらには、民間事業者にも積極的にイベントなどへ参画いただきながら、現在整備を進めている「(仮称)お茶と宇治のまち歴史公園」を起点として、宇治橋周辺そしてダムを結ぶ、周遊観光へとエリアを広げ、より一層の観光振



地域の夏の風物詩「宇治川の鵜飼」

興・地域の活力向上を目指していきたいと考えています。

人口減少に歯止めを掛けるためにも、まちと一緒に元気に成長する企業を育みながら、かけがえない財産である「宇治の魅力」を、一人でも多くの方に実感していただき、「住みたい、住んでよかった」と思っていただけるまちづくりを着実に実現してまいりたいと考えています。

### プロフィール

- ◆ 面積 67・54 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 18万6802人
- ◆ 世帯数 8万4197世帯

〔将来都市像〕みどりゆたかな住みたい、住んでよかった都市

〔まちの特徴〕この豊かな自然や歴史・文化遺産を守り育て、未来へと引き継いでいくことによって、そこに住む人々が誇りと愛着を感じることできる「ふるさと宇治」を創造

〔特産品〕宇治茶、椎茸、プロッコリー、



宇治市長  
山本 正



万願寺とうがらし  
〔観光〕世界遺産「平等院」、「宇治上神社（現存する最古の神社建築）」、萬福寺（日本の煎茶文化発祥の地）、天ヶ瀬ダム、源氏物語ミュージアム、対鳳庵（市営茶室）  
〔イベント〕宇治川さくらまつり（4月）、あがた祭（6月5日）、宇治川の鵜飼（7月〜9月）、宇治茶まつり（10月第1日曜日）、宇治川マラソン大会（2月下旬）



「天ヶ瀬ダム」は市の有力な観光資源

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

# かかわる 踏み出す はぐくむ 「共創」でつくる 新しいおおだ

## 動き出した総合計画

第2次大田市総合計画を本年3月に策定し、8年間にわたる大田市の計画が動き出しました。この計画は、多くの若い方や女性の皆さんにご参加いただいた審議会やワークショップにおいて、1年以上かけて話し合い、そこでの議論を踏まえて策定したものです。さらに、市内在住の市民3000人からのアンケートや、将来の本市を担う若者の意見を取り入れるため、市内の高校に通う全生徒を対象としたアンケートも実施しました。



国立公園「三瓶山」の豊かな自然環境

これからのまちづくりは、市民の方々と市役所が一緒になって、もっと元気で、もっと魅力的で、もっと幸せを感じることができるよう大田市を、「共」に「創」り上げていくため、基本姿勢に「共創」を掲げました。また、基本理念には、多くの人と関わり主体性を持って次世代につなげる「かかわる」、新しい発想やチャレンジ精神を持つて誰もが一步踏み出し未来を創造する「踏み出す」、一人一人が行動しみんなでまちを育み、成長しながら共に歩む「はぐくむ」の3点を据えています。

## 総合計画の6本柱

「共創」の基本姿勢や本市の将来像「子どもたちの笑顔があふれ、みんなが夢を抱けるまち、おおだ」を実践するため、6本の基本

方針を設け、一人一人を大切にす  
る市政を心掛け、各施策を展開し  
ています。

まず、「産業づくり」では、多様  
で活力ある「産業」をつくるため、  
IT系企業4社の進出をはじめと  
した企業誘致、JR大田市駅前の  
中心市街地活性化や企業を支える  
人材の育成に取り組んでいます。  
2本目の柱、「豊かな心づくり」で  
は、ふるさとを愛する「豊かな心」  
を育むため、県立高校を含めた教  
育の魅力化やコイディネーターの  
配置、世界遺産「石見銀山遺跡」



史跡石見銀山遺跡の龍源寺間歩(りゅうげんじまぶ)・坑道内の様子

の保全や活用を推進しています。

3本目の柱「暮らしづくり」では、  
誰もが住み良い「暮らし」をつく  
るため、新大田市立病院の建設を  
はじめとした地域医療の確保・充  
実や、結婚・出産・子育ての希望を  
かなえる環境整備に取り組んでい  
ます。4本目の柱「都市基盤づく  
り」では、暮らしや交流を支える  
「都市基盤」の整備で、JR大田市  
駅前の区画整理事業に取り組みほ  
か、公共下水道の整備、道路ネッ  
トワークなどのインフラ整備を進  
めています。5本目の柱は「自然・  
生活環境づくり」で、人と自然が  
共生した「自然・生活環境」をつく  
るため、国立公園「三瓶山」の豊  
かな自然環境の保全や、ごみの減  
量化など循環型社会の構築を進め



三瓶火山の噴火で埋もれた「三瓶小豆原埋没林(さんべあずきはらまいぼつりん)」



地域の郷土芸能「多根神楽(たねかぐら)」

ています。最後の柱「持続可能なまちづくり」では、協働・共創により、持続可能なまちをつくるため、住み慣れた地域で住み続けるためのまちづくり活動や市民との意見交換会などを行っています。さらに、平成30年4月に発生した大田市東部を震源とする島根県西部地震からの復旧・復興についても重点的な課題として、取り組んでいます。

## 祝！ 日本遺産認定

地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るス

トリーを文化庁が認定する日本遺産に、島根県西部の9市町連携で作成した「神々や鬼たちが躍動する神話の世界」石見地域で伝承される神楽」が認定されました。市内には10の神楽団体があり、

神へささげる神楽を大切にしながら地域イベントなどで年間を通じて盛んに舞われています。石見神楽は、地域の伝統芸能でありながら時代の変化を受容し、発展し、その厳かさや華やかさは、人の心を惹き付けて離しません。

石見地域の誇る伝統芸能である石見神楽を通じて、9市町が連携し、石見地域全体の地域振興に取り組んでまいります。

## 全国植樹祭の開催！

令和2年春、天皇后陛下をお迎えして、国立公園三瓶山北の原を主会場に「木でつながろう」と森との縁の輪」を大会テーマとした「第71回全国植樹祭しまね2020」が開催されます。

天皇陛下には、スギ・コウヤマキのお手植え、皇后陛下には、ヤマザクラ・シヤクナゲのお手植えなどが計画されています。

昭和46年には、今回の会場と同

じ場所で、第22回全国植樹祭が開催され、昭和天皇並びに香淳皇后がクロマツをお手植えされ、約1万5000人の参加者により、約2万本のクロマツが植栽されました。また、平成3年の第15回全国植樹祭では、昭和天皇がお手植えされたクロマツを天皇陛下がお手入れされています。

今回の植樹祭では、昭和46年に

## プロフィール

- ◆ 面積 435.71km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万4650人
- ◆ 世帯数 1万5694世帯

〔将来都市像〕子どもたちの笑顔があふれ、みんなが夢を抱けるまち。おのだ。〔まちの特徴〕世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」を有し、国立公園「三瓶山」や豊かな温泉資源に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年10月1日、大田市、温泉津町、仁摩町で新設合併



大田市長  
榎野弘和



〔特産品〕ぶどう、メロン、西条柿、三瓶そば、三瓶わさび、海産物、清酒、ワイン、石見銀山和牛  
〔観光〕石見銀山遺跡、三瓶山、温泉津温泉、琴ヶ浜、仁摩サンドミュージアム、島根県立三瓶自然館サヒメル  
〔イベント〕彼岸市、石見グランフオンド、大田市民の祭り天領さん、三瓶高原クロスカントリー大会、時の祭典

お手植えされたクロマツを収穫し、大会のお野立所の一部や式典での鉦・演台、案内板などに利用し、その跡地へ植栽を行うことにより、循環型林業のモデルを実践することとしています。本市としても、島根県や実行委員会と連携して、大会の成功ならびに三瓶山をはじめとする魅力発信に取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。